

学 科	作業療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	評価実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	225 (5) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部3年	学期及び曜時間	後期	教室名	各実習施設
担 当 教 員	樋口 舞				
実務経験と その関連資格	<p>作業療法士として回復期の身体障害領域に従事。 心身機能・活動・参加・環境に対する各種評価・作業療法を実施。 その後、放課後等デイサービス、小児・成人の訪問リハビリを通し、生活期のリハビリに関わる。 生活行為向上マネジメント(MTDLP)基礎研修修了。</p>				
《授業科目における学習内容》					
<p>次の3つの視点を持ち、対象者とかかわり評価を実施できるようになる ①人を心身機能の側面からのみ理解するのではなく「生活をする人」として、活動から参加までを包括的に捉える視点、②対象者の生活を、過去から現在、そして将来まで「連続している生活」として理解し、支援する包括的視点、③対象者の「したい」と思う作業から始まり、「できる」「する」作業へ、加えて地域の社会資源の活用まで幅広く捉える「作業の拡がり」という包括的視点</p>					
《成績評価の方法と基準》					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習地での評価 ・学内(発表・試験) 					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
各実習施設で指示された教材。					
《授業外における学習方法》					
これまで学習してきた疾患に関すること、実技(評価)に関することを復習、練習をしておく。					
《履修に当たっての留意点》					
臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける。作業療法士として働くことを意識し、自分はどういう職場で働き、どのような作業療法士になりたいかを考えて行動すること。学生として患者様に出来ることをできる限り行動がとれるよう、しっかりと事前準備をすること。					
実習プログラム					
実習期間	2025年 10月27日 ~ 11月22日(学外実習:1日あたり約8時間)				
時間数	2025年 11月25日 ~ 11月28日、他数日(学内実習:実習セミナー) 合計 225時間				
実習の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、作業療法士としての、 1)対象者への直接的な働きかけを通して、専門職としての自覚を持ち、望ましい態度を身につける。 2)臨床教育指導者のもとで、対象者の評価、治療計画の立案、その記録・報告など一貫した作業療法を習得する。 3)実習施設の概要、及び、リハビリテーションチームにおける作業療法の位置付けと役割を理解する。 4)作業療法士としての管理・運営業務を学ぶ。 				
実習の内容	<p>作業療法臨床実習の過程、また各過程における指導内容を「基本的態度」「臨床技能」「臨床思考過程」に分け、それらの項目を、見学—模倣—実施の教育課程の流れで指導をうける。</p> <p>見学:学生が臨床実習指導者の行う作業療法を解説を受けながら観察すること 模倣:学生が臨床実習指導者の行う作業療法を指導を受けながら実際に行うこと 実践:学生が臨床実習指導者の行う作業療法を監督の下、主体的に実際に行うこと</p> <p>学校への提出課題 1)実習スケジュール、2)毎日の行動記録、3)施設概要、4)リハビリテーション関連部門の見学のまとめ 5)作業療法部門のまとめ、6)その他の記録、7)実習を終えての感想・反省レポート</p>				